

上村和子 活動レポート

うえむら かずこ

こぶしの木 No.101

2025年9月18日発行



排外主義の先に平和なし 平和な未来は、共に生きる、ソーシャルインクルージョンに

さらなる人権行政の確立をめざします！

国立市議会議員 上村和子

排外主義の台頭を止める

都議選・参議院選挙は、国民の信頼を失った自民党は大敗したものの、差別をあおる排外主義の極右政党が躍進しました。暮らしの厳しさに対する消費税減税等の政策の議論が「外国人問題」にすり替えられてしまいました。ヘイトクライム（憎悪犯罪）を誘発しかねない深刻な事態です。

この動きに抗し、差別をあおる活動は許さないと立ち上がり監視する市民、意見表明する団体、取り上げるメディアも出てきました。私たちはこの草の根の動きに連なり、戦争やジェノサイドにつながる排外主義の台頭を止め、民主主義を守り、助け合って共に生きる、平和・人権・多様性を尊重する未来へと進まなければなりません。

選挙戦で一貫して排外主義の問題を主張した木村英子さん

参議院選挙で、私ははいわ新選組から全国比例で立候補した重度しうがいしやの木村英子さんを応援し、

改めて当事者運動の強さと参政権の意味を学び、排外主義に打ち勝つ選挙とはこれなのだと思感しました。24時間介助を必要とする重度しうがいしやが、参政権・被選挙権を行使できたのは事実上今回の選挙が初めてでした。重度しうがいしやの命綱とも言える「重度訪問介護」制度による介助者（ヘルパー）派遣は、今までは選挙活動（就業や通学も）に使えなかったからです。

木村英子さんが国会で石破総理に質問することによって、今回から選挙活動への介助者派遣が認められました。木村英子さんはその権利行使し立候補、全国の重度しうがいしやが応え、比例の立候補者172名中29位の高得票で当選しました。

木村英子さんは選挙戦の途中から一貫して、排外主義の問題を主張。「排外思想は優生思想とつながり、重度しうがいしやの生きる権利は侵害される。過去に殺された歴史があり、決して認められない」と主張しました。

戦争を止める力量ある国会議員が出現

さらに、れいわ新選組は特定枠を使い、紛争地で武装解除交渉人もしてきた伊勢崎賢治さんを参議院議員にしました。伊勢崎さんは早速、日米地位協定やガザの問題を取り上げ、超党派の議員連盟の立ち上げを宣言、記者会見でジェノサイド条約の批准や東アジア諸国と共に平和ビジョンをつくる等の抱負をのべています。戦争を止めるための力量と経験を持った国会議員の出現に希望を持ちます。

外国人排斥解決から生まれたソーシャルインクルージョンの理念

今こそ、包括的差別禁止法の制定、人権機関の設立、外国籍市民の参政権を保障するしくみが必要です。

外国人排斥の危険な動きを解決するためにヨーロッパで生まれたソーシャルインクルージョンの理念を掲げ、人権を守る本物の国会議員と連帯しながら、人権行政の確立を当事者参画によってさらに進めていきます。



参議院選挙で木村英子さんを応援する上村和子、船後靖彦さん、天畠大輔さんとともに立川駅北ロデッキで。(2025.7.19)

6月議会

(上村は6月12日)

国立市平和都市宣言を
未来につなげる企画

上村 6月21日の国立市平和の日に、戦後80年と市平和都市宣言を未来につなぐための、宣言を市民に周知できる企画がないか。

濱崎市長 対話の場合は8月頃を考えている。宣言を駅前に掲げたいとの意見があるが、考えていく必要がある。

フルインクルーシブ教育

上村 神奈川県は10年前に教育委員会にインクルーシブ教育推進課ができ、積極的に取り組んでいる。海老名市教委と協定を結び、海老名市は市のフルインクルーシブ教育推進ビジョンと5か年の取組計画を公表した。市は学んだらどうか。

橋本教育部長 インクルーシブな環境をめざし、学校・学級の包摂力を高める取り組みは変わらず推進していく。また誰もがその子らしくいられる教育を進めていきたい。

認定こども園国立富士見
台団地「風の子」の問題

上村 行政としてこれまでの

上村和子
一般質問から

9月議会

(上村は9月5日)

平和問題

上村 私の提案により実施された、戦後80年と国立市平和都市宣言施行25周年をつなげた市長と若者の対話の場の成果は？

市長 宣言に込められた国立市民の思いは25年たっても、今の若い世代にしっかり伝わると感じた。この宣言が強く望んだ平和な世界はいまだたどり着いておらず、これからも続く取り組みが必要と感じている。

環境教育と
自然・共存土木問題

上村 二小をモデルに、未来に向けて子どもたちの声を聴き、樹木、自然を守る環境教育と自然共存土木について話し合う対話の場を作ってほしい。

教育部長 どういう形がいいのかということも含めて、子どもたちと対話する機会を考えていければと思っている。

人権問題―外国籍市民
懇談会の再開

上村 川崎の外国人市民代表者会議を参考にして提案し、実現した外国籍市民懇談会が中断しているが再開すべきと思う。

松田生活環境部長 外国籍市民懇談会は2015年から、職員とのグループワーク形式で実施していたが、コロナ感染拡大により中止し、現在に至っている。今後は人権の視点等を取り入れるなど、どのような形で実施していくかを含めて検討していきたい。

「風の子」の問題

上村 「風の子」問題は、現在「手つなぎ保育 風の子」として素晴らしい自主保育が続いている

が、保育士の給与の問題、保育の場所、来年度以降の見直しなどたくさん課題があり、市として支援することが求められている。

松葉子ども家庭部長 補助金の支給や場所の確保について調整を行っている。引き続き現在の枠組みの中で精いっぱい検討していきたい。

フルインクルーシブ教育

上村 保護者が多様な場を選択できると言われても、問題の解決を親、とくに母親に背負わせている。子どもを主体に大人たちが共に考え共に歩む、そういう姿勢や覚悟が必要だ。当事者と建設的対話はできたのか。

橋本教育部長 地域の学校に通えることのハードルが高かったことによる苦勞があったことは、改めて重く受け止めなければと感じた。

教員はその都度子どもたちとも話し合いながら、工夫していった。

今後については、まず教育大綱に学校学級の包摂にかかわる内容が示されることになるが、その上でその取り組みガイドラインを作成したい。

二小樹木保存、子どもたちの政策提案の話し合い

上村 二小樹木保存を通して出てきた子どもたちからの政策提案についての子どもたちの話し合いは実現したか。

教育部長 二小改築における樹木に取り扱い等について子どもたちの意見を聞くため、学校と相談をしているところ。意見については、可能な範囲で、関連事業や学校活動等に反映するよう検討したい。2学期中の実施に向け準備を進めていきたい。

しょうがいしゃの自立に向けたサポート制度

上村 しょうがいしゃが当たり前になるまで宣言に基づき、世田谷で始まった自立に向けたエンパワーメントサポート制度を国立でも取り入れられないか。

大川健康福祉部長 「地域で暮らしたい」という意思を発信した時に、それをサポートできるような環境が今後さらに必要。本人の意思が形成され、意思表示され、それが実現する過程それぞれに支援が必要で、そのプロセス自体が意思決定支援。

実際に関わっている方々からも意見を聞きながら、内容や方法を一緒に考えたい。

わたしたちの「自治」、共育ちの場所をもう一度！

団地のあの場所で

「風の子」の保育の続きを作っていきたい

寄稿

「風の子」保護者 Y

「ただ子どもを預けっぱなしにするのではなく、今、この子達に必要な環境はどのようなかを、保育士も、その他の職員も、保護者も、地域住民も共に知恵と技術を出し合う。多数決ではなく、とことん話し合い、それぞれの意見を深く知ること、時間はかかるけれども、少しずつ良い環境をつくりあげていく。」

フルインクルーシブ教育親の思い

「教育を工夫の限りやり切る」という覚悟を

寄稿

「ともに育ち、ともに学ぶ」が当たり前になった社会では、「よそに行けばいいのに」と考える人はいなくなります。」

富士見台あきらめない母親

私たちの国立が目指すべき道は、出来る出来ないに関わらず、障がいのある子もいない子も皆当たり前に地域の小学校に通い、ともに育ち、ともに学ぶことです。これが当たり前になった社会では、もう、集団になじまないから、障がい

ことを肌で体得していく。「これが、私たちが58年バトンを渡しながら繋いできた精神であり、自治の姿です。」

NPO法人くにたち農園の会の理事達は、こうした風の子の運営のあり方を否定し、尊重しませんでした。

そして遂に今年4月、これまでの風の子を守り続けていた園長が法人により懲戒解雇され（多くの保護者・職員・卒室卒園生とその保護者・地域の方々が反対署名を提出したにも関わらず）、法人に異議を唱える保育士と職員がス

トライキに入りました。

それに伴い、多くの保護者は、一連の対応による法人への不信感から、新体制の園に子どもを預け続けることができなくなりました（33名中21名）。

風の子は、まだまだ地域の居場所として発展していくはずでした。

「私たちは、もう一度団地のあの場所で、その続きを作っていきたい。」

園で勤め続けることができなくなった保育士や職員、保護者や市民ボランティアや卒

になったり、忘れやすくなったり、出来ていた事が出来なくなったりしても、皆があるのままで、安心してその人なりの生活を送れるような、しなやかな社会になります。

親は、我が子を覚悟を持って工夫の限り育てます。

国立市の先生は「今日学校に来た子を学校にいる先生皆で教育する、教育を工夫の限りやり切る」という覚悟を持って、クラス、学年、特別支援の枠

組みを超えて子どもたちに接していただけるようになる信じじています。

出来る子も出来ない子も共に学ぶことで、どの子もみな参加できる工夫が学級にうまれます。その子なりの挑戦ができれば、出来ないで悩んだり自信を無くしたりせず、済み、皆安心してのびのびと育つようになります。大人による支援の手厚さは学校を出ると無くなりますが、本人と、本人が育つ周りの環境と一緒に



母と子が一緒に手話付きで、教科書をボロボロになるまで読む家庭学習は、小学校入学後すぐに始まり、2年生の夏休みも続きました。

育てば、それは一生ものになります。これらはもう、子どもの特権かもしれません。



風の子の子どもが描いた絵「おかあさんいつもありがとう」

室卒園保護者で、今も風の子の保育を望む子どもたちの保育を続けながら、「続き」を描こうとしています。

寄稿

排外主義は人間としての生き方を否定する！

国立市人権・平和のまちづくり審議会委員
清掃・人権交流会会長 押田五郎

この夏、排外主義を声高に叫ぶ人たちが侵入してきました。ご存じの参政党です。金権まみれで将来が見通せない自民

党政治に見切りをつけ、とりあえず自分たちの利益になりそうなおいしい「えさ」に引きずられた人々が、外国人やマイノリティの人々を排除する排外主義の極右思想に取り込まれた結果でした。優生思想、性的多様性排除、天皇制回帰、核武装の主張など、これまで表面的には控えられてきた恐ろしい主張が今回大手を振って飛び出してきました。しかもそれを大歓迎する多くの人がいたのです。

ドイツのヒトラーも第一次世界大戦で疲弊したドイツ社会の中で、排外主義や優生思想をかざして選挙で勝ち、合法的に独裁政権を築きました。クレーダーで政権をひっくり返した訳ではありません。そしてジェノサイドで殺されたのはユダヤ人だけでなく、しょうがいしゃや社会的マイノリティ、社会主義者などの異議を唱える人々でした。

夏の参議院議員選挙では、いくつもの政党が参政党の主張に引きずられるような危ないスローガンを出しました。自公の過半数割れは極右の流れと結びついて

おり、大変危険な状況だと言わざるを得ません。

こうした動きに、在日コリアンやしょうがいしゃの方々から、「自分たちは殺されるかもしれない。とても怖い。関東大震災時の虐殺が繰り返されるのか」という悲鳴があがりました。私の身近にも衝撃的な事件が起きています。

韓国から留学している友人が、「選挙での排外主義主張を聞いて体調を崩し、食事ものを通らず、外に出られなくなった。日本語が語られている場にいられない」と悲痛な叫びをあげたのです。そこまでの鋭い感性に至っていなかった私の胸に、本当にグサツと刺さりました。

差別や人権侵害を許さず、誰一人排除されることのない社会を私たちはめざしています。また自分が差別される立場にあっても、いつでも他の人を差別する加害者になるかもしれないと自戒しているつもりです。でもまだまだ足りない。

人間としての生き方を否定する風潮がまかり通る世の中にしてはいけません。もっと頑張らなければ、とこの猛暑の中で考え続けています。

上村和子・主な活動から 2025年5月～8月 ★=市議会関係

- 5月 6日加害者としての戦争を語る会、沖縄戦、林博史さんから学ぶに参加
15日 ★議長所信表明に参加
16日 ★臨時議会
20日 ★6月議会提案議案についての説明を受ける
22日 年末年始困りごと相談会実行委員会に参加
6月 1日 上村和子と市政を語る会
5日 ★6月議会初日本会議
9,10,11,12日 ★一般質問(上村和子は12日)
16日 ★総務文教委員会出席
17日 ★建設環境委員会
18日 ★福祉保険委員会
25日 ★最終本会議
7月 13日 桜守大谷和彦さんにお話を伺う
23日 二小こどもたちによる本移植された桜の養生活動見学
24日 ピースサイクル国立市訪問懇談に同席
28日 全国障害者地域支援連絡会発足会に参加
8月 4日 三多摩日朝友好促進議員連絡会会議参加
10日 ★総務文教委員とフルインクルーシブ教育をめざす保護者との懇談会
12日 ★9月議会議案等の説明を受ける/人権月間実行委員会参加
14日 二中に車椅子昇降機設置を求める保護者と教育長・副市長等との話し合いに参加
17日 ★総務文教委員とフルインクルーシブ教育をめざす保護者との懇談会

- 21日 生き権会議/難病ALDのこどもを持つ親の会の方のお話を伺う
27日 教育大綱に関する保護者と市長、教育長等との対話に同席
29日 ★9月議会初日本会議
31日 「なくそう戸籍と婚外子差別・交流会」夏合宿の講師として参加

上村和子と市政を語ろう会

9月28日(日)午後2時～4時

会場:くにたち福祉会館3階小会議室

上村から6月議会・9月議会の振り返りなどお話しし、まちの問題等について意見交換などを予定しています。

人権・平和 学習会

ヘイト・レイシズムに抗うために
～人権の最前線に立ち続ける新聞記者から学ぶ～

11月1日(土)午後6時～

会場 国立商協ビルさくらホール(国立駅南口)

講師 石橋 学さん(神奈川新聞記者)

主催 石橋学さん学習会実行委員会 ☎090-1814-8371 上村

連絡
上村和子
先子

〒186-0003
国立市富士見台 3-32-4 日商岩井マンション 1110
☎090-1814-8371 fax 042-574-2646
E-mail:kazuko-kobushinoki@ezweb.ne.jp
https://ikiru-kenri.jp/ https://lit.link/kazukouemura

プロフィール
上村和子

1955年 長崎市生まれ/1978～82年 長崎県立高校教諭
1985年～ 国立市に居住/1991年～ 三小PTA・一中PTA・
国立高校PTAなど/滝乃川学園非常勤職員
1999年4月～ 国立市議会議員。現在7期目、総務文教委員会所属。
人権派議員として人権が守られるまちをめざし全力で務める。